

看護師の口腔ケアに対する意識調査 ～口腔嚥下チームの介入がもたらした変化～

Survey on attitudes of nurse' s forward oral care

-Development by intervention of oral-care team-

東5階病棟 ○亀子 麻衣、村上桃香、井口 靖子、大曾 契子

【要約】

2009年より院内の口腔嚥下チームの介入が始まり、看護師の口腔ケアに対する意識の変化があったのかについて調査をした。チーム介入前後ともに誤嚥予防・口腔内の観察をすると答えた人が多かったが看護師自身の安全確保に対しては注意して行っている人が少なかった。技術が難しい事や十分な口腔ケアをするには時間がない事、口臭対策に困っていた。チームの指導を受けた人はブラッシング方法、歯間ケアや口腔内リハビリ等学んでいた。今後はデモンストレーションをまじえた指導が期待されている。

Key word: 口腔ケア、意識調査、口腔嚥下チーム

I. はじめに

脳神経外科病棟では、延髄付近の病変による嚥下中枢の障害や脳神経障害などにより嚥下障害をきたす患者や、くも膜下出血・脳腫瘍・脳内出血などが原因で意識障害を来している患者が多く、誤嚥・不顕性誤嚥による誤嚥性肺炎を引き起こす可能性が高い。誤嚥性肺炎の予防から口腔ケアの必要性が高いと考えられる。また、口腔ケアを行うことは、経口摂取開始に備え、口腔内の状態を良好に保つためにも大切なことである。

津雲らの研究結果でも口腔ケアに対する関心度・必要性は高いが、7割以上が口腔ケアに対して悩んだ経験を持つとあり、今までは直接指導されることがなく、独自の方法で口腔ケアを行っている状況で悩んでいたと考えられる。2009年9月より院内の口腔嚥下チームの介入がはじまったが、口腔嚥下チームの介入により、口腔ケアの指導を受けることで、看護師の口腔ケアに対する意識が変わったのではないかと考えられる。

そこで、介入前後で口腔ケアの方法・口腔ケアに対する考え方についてどのような変化があったのかを明確にし、今後の課題・チームに期待するものを見出し、よりよいケアを提供することを目

的とし本研究に取り組むこととした。

II. 研究方法

1. 期間：H21年12月23日～28日

2. 対象：病棟の看護師 27名

3. 調査方法：独自に作成した質問用紙を用いて調査した。

質問は、口腔嚥下チーム介入前後での変化をみる為の内容とした。(資料1参照)

<チーム介入前>

口腔ケアの目的・口腔ケアに対する思い、口腔ケアの回数、口腔ケアにかかる時間、口腔ケア時の注意点、口腔ケア時の悩みなどを問う質問を入れた。

<チーム介入後>

口腔嚥下チームの介入を受けた者に対し、介入前と同様の質問に加え、指導が役立っているか、口腔ケアに対する意識の変化があったのかを問う質問を入れた。

4. データ分析方法

アンケート全項目を単純集計し、自由記載の内容は類似するものはカテゴリー化。介入前後での変化をみる。

5. 用語の定義

1) 口腔ケア：看護師が日常的に行う口腔内環境改善のためのケア。

2) 嚥下口腔チーム：院内中央 NST・口腔嚥下チーム。歯科医師・歯科衛生士・言語療法士が毎週1回病棟へ回診し、口腔衛生環境や摂食嚥下状況を診察。病棟での対応方法をアドバイス・専門的対応の検討を行う。

6. 倫理的配慮

信州大学病院院内看護研究倫理委員会の承認を得た。データ収集に際して、個人が特定されないよう配慮、調査用紙の回答を持って協力の意志表示があったものとする。調査結果は研究のみに使用し調査終了後、速やかに破棄することとした。

III. 結果

アンケートの回収率は77.8%(21名)であった。

1. 口腔ケアの目的：清潔保持20名、誤嚥性肺炎の予防19名、口臭予防17名・乾燥予防16名の順に多かった。(図1)

2. 口腔ケアの重要性：19名が重要・2名がやや重要と答えている。

3. 口腔ケアの回数：日勤帯が1回、夜勤帯が2回と答えたものが殆どであり1日3回口腔ケアが行われている。

4. 口腔ケアにかかる時間：5～10分が多かった(16名)。(図2)

5. 口腔ケア時に気をつけていること：誤嚥しないようにする(19名)・口腔内の観察(15名)、口腔内を傷つけないようにしている(12名)の順で多かった。看護師自身の安全確保が出来ているものが少なかった。(図3)

6. 口腔ケアが十分に出来ているかについては、十分に出来ていると答えた人は4名、どちらともいえないと答えた人は15名、出来ていないと答えた人は2名であった。

7. 口腔ケアで困った事は、技術が難しい(7名)、時間がない(8名)が多く、その他に開口困難がある人へのケアや口臭対策について困っている。

8. チームの指導を受けたものは全体の半分程度(10名)であった。

指導を受けていない人は、効果的な口腔ケア・個々に応じたケアグッズの紹介などについて指導を受けたいと答えていた。

9. 口腔ケアの指導を受けた看護師は、口腔機能の回復にも焦点を当てられていた。(図1)

指導を受けた後に口腔ケアの回数・ケアの時間に変化はなかった。

指導を受けた人の殆どは指導が役立っていた。(9人) 具体的な方法やブラッシングの方法が分かったと答えていた。

10. 介入したことで解決したことがあったかについては、多数解答があった。出血傾向の人のケアや、個々にあったケア方法を再確認できていた。

11. 介入後、口腔ケアに対する意識が変化した人は少ない(3人)が、変化した人の中には歯間ケアに対する意識変化・口腔ケアがリハビリになっていることを学んでいた。

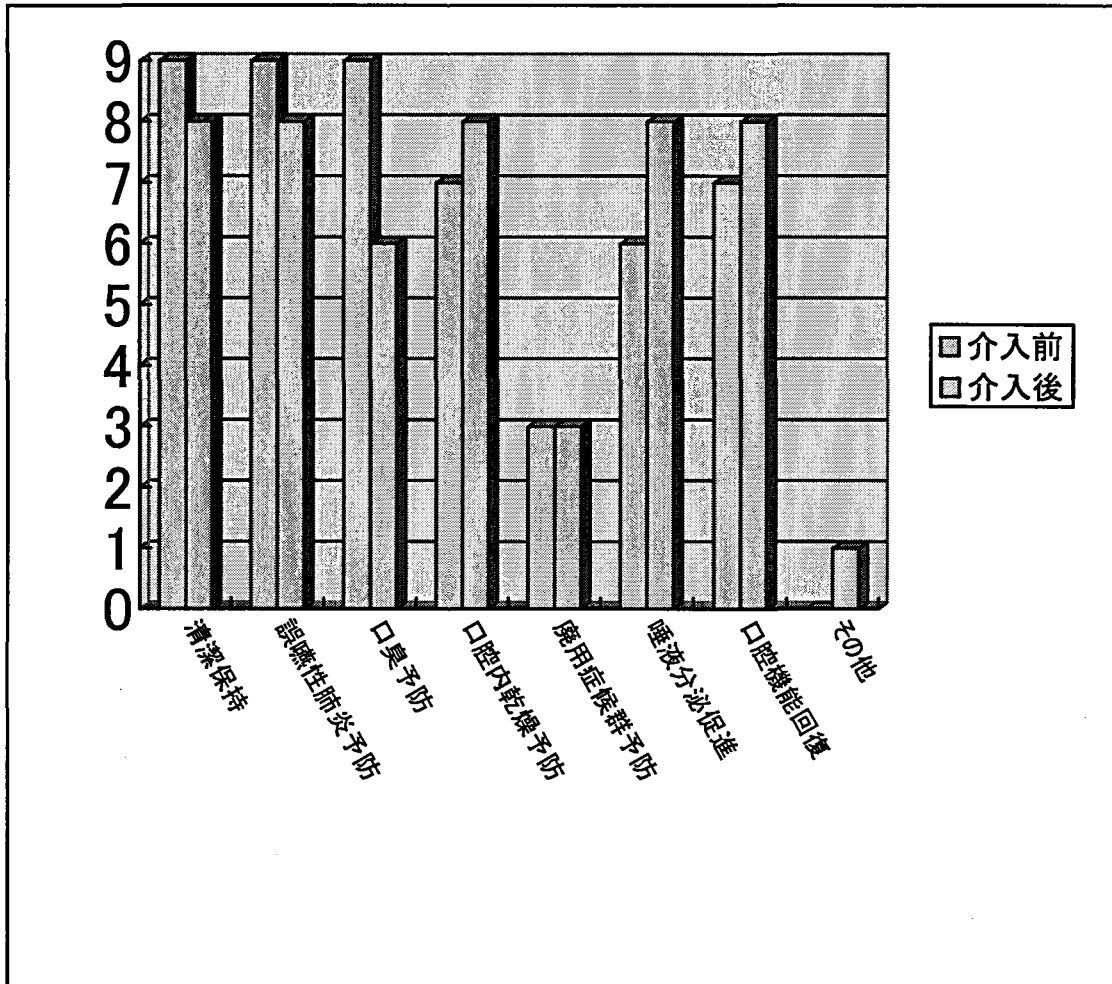


図 1 : 口腔嚥下チーム介入前後の目的の変化 (n=10: 口腔嚥下チームの指導を受けた者)

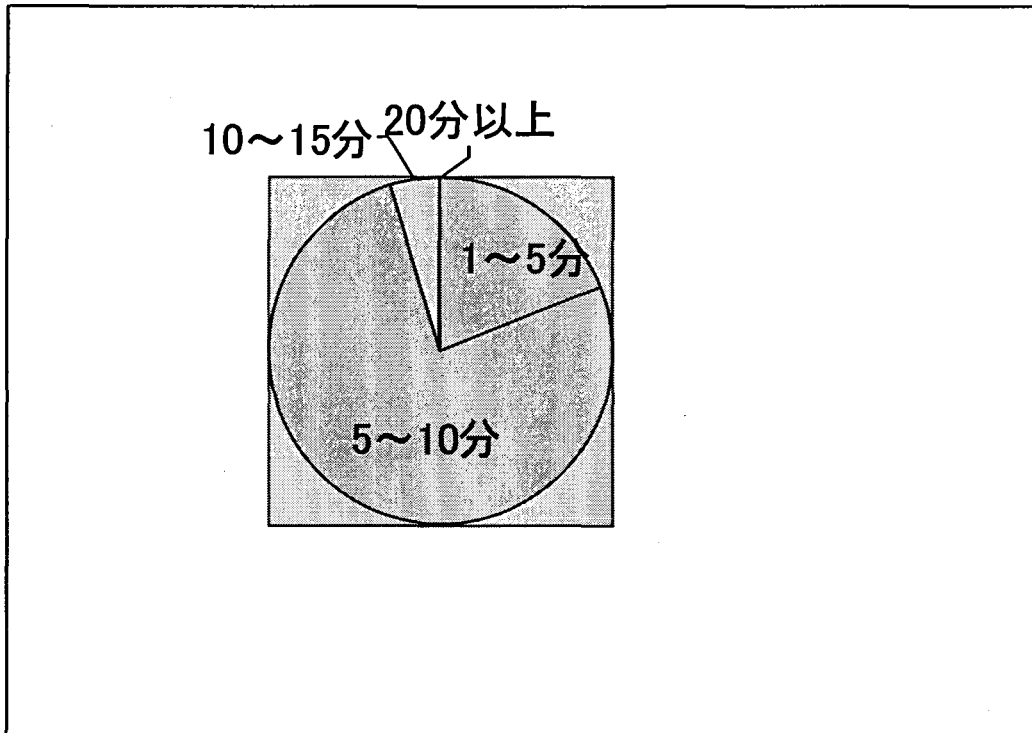


図2：口腔ケアにかかる時間 (n=21)

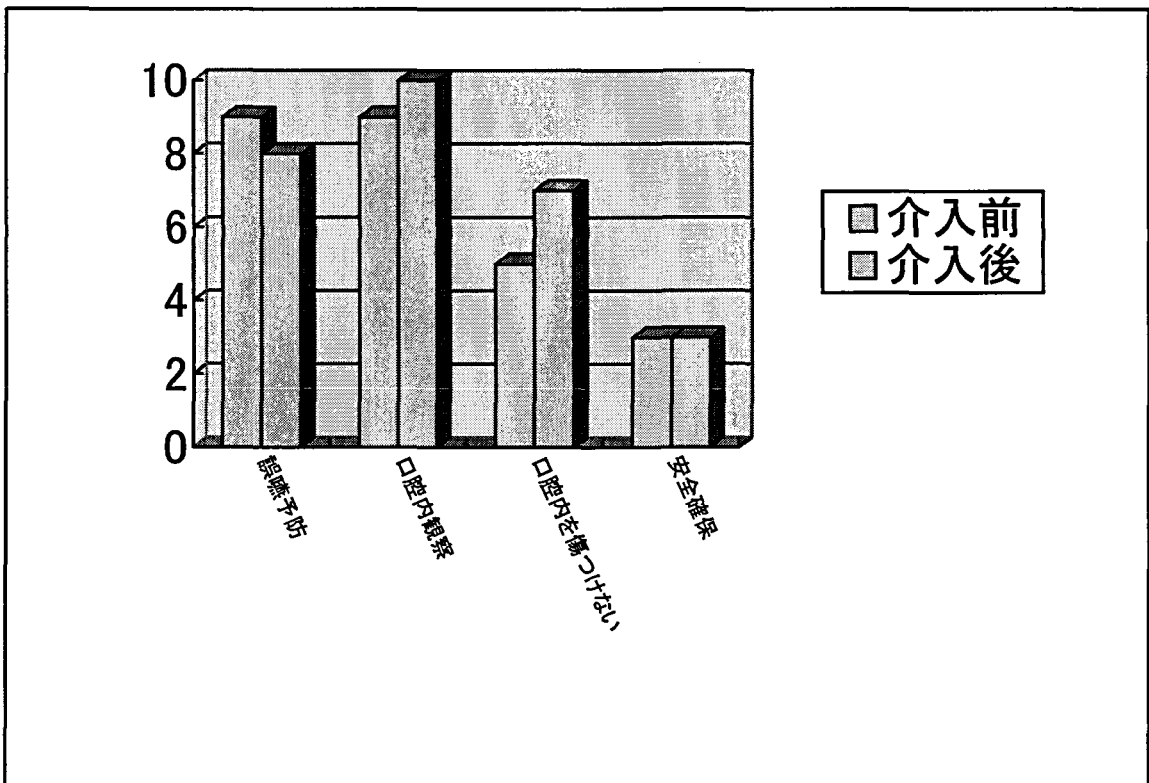


図3：口腔ケア時の注意点 (複数回答)

IV. 考察：

看護師の口腔ケアに対する調査の結果、看護師の口腔ケアの目的は清潔の保持、誤嚥性肺炎・口臭・乾燥予防が主であり、廃用性症候群の予防または口腔機能の回復を目的としたケアが意識されていないことが分かった。嚥下・口腔チームの介入が始まり、指導を受けたスタッフは口腔機能の回復に焦点を当てたケアを行なうようになり、また看護師の口腔ケアに対する関心が高くなってきていると言える。

現在は、食事の回数に合わせて口腔ケアが行われており定着している。しかし、時間が限られている中でケアを行う為、十分なケアができていないか自信が持てないスタッフも多いと考える。

また、十分な口腔ケアを行う上で、口腔ケアに費やす時間の確保に困っている看護職者が多い。

看護師が口腔ケアに費やす時間は5～10分が多かった。しかし他病院や介護施設では時間の確保が難しく5分間を目安として口腔ケアを行っている施設が多い。5分間という短時間でも、効果的な方法で行うことで口腔内汚染は減少するといわれているので、口腔ケアをする際、目的にあったケア方法を効果的に行っていくことが重要である。また技術・知識が向上すれば5分間でも十分な口腔ケアができるのではないかと考え、口腔・嚥下チームによる指導が望まれる。

口腔ケア実施時、介助者自身の安全確保に対する意識は低く、感染予防面についてケア方法の手順を統一していく必要がある。

口腔ケアの看護指示は記載されているものの、介入内容には個別性がない事が多いのが現状。口腔ケアには様々な目的があり、どれも大切である。患者の状態に合わせた目的を考慮し、ケアが行えれば、自信をもってケアできたと評価できるようになり看護師の意識変化に影響すると考える。

指導する際、口頭で説明をうけても実際にはイメージしにくくケアに反映させにくいと考えられる。今後デモンストレーションを交えた指導があればいいのではないかと思う。

V. 結論

1. 口腔・嚥下チームの介入前後では、口腔機能の回復に焦点が当てられ、看護師の口腔ケアに対する関心が高くなった。
2. 安全確保に対する意識が低く、感染予防も含め、ケア方法の手順を統一していく必要がある。
3. 口腔・嚥下チームにはデモンストレーションを交えた指導が期待されている。

<引用文献>

- 1) 津雲まゆみ他:看護師の口腔ケアに対する意識調査—経験年数別の比較—、看護総合、2008

年 ; 39 : 295-297

<参考文献>

- 1) 石井陽子他 : 口腔ケアに関する看護職者の意識調査、成人看護Ⅱ、2007年 ; 38 : 401-403
- 2) 西本せい子他 : 意識障害患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査、看護総合、2002年 ; 33 : 272-274
- 3) 村松真澄 : “摂食・嚥下障害を助ける” 口腔ケア, Expert Nurse, 24 (3), P61-65, 2006
- 4) 別府千恵 : 口腔ケアが秘める可能性, Nursing Today, 21 (5), P6-7, 2006
- 5) 枝村明美 : “口” から患者をよくする, Nursing Today, 21 (5), P10-11, 2006
- 6) 向井美恵他 : Nursing Mook20 摂食・嚥下障害の理解とケア, 学研, P160-163, 2003
- 7) 岸本裕充 : 摂食・嚥下リハビリテーションでオーラルマネージメントが重要な理由, Expert Nurse, 24 (3), P58-60, 2006
- 8) 竹村信彦他 : 成人看護学 (7) 脳・神経疾患, 第11版, 医学書院, P220-224, 2003,

質問7. 口腔ケアについてどのような事で困ったり、悩んだりしていましたか。(複数回答可)

- ① 方法がわからない
- ② 技術が難しい
- ③ 口腔ケアをするのが怖い
- ④ 誰に相談してよいかわからない
- ⑤ 時間がない
- ⑥ その他(下記へお書き下さい)

()

質問8. 院内の嚥下口腔チーム・または病棟NST より口腔指導を受けたことはありますか。

- ① 受けた事がある
- ② 受けた事がない

⇒「受けた事がない」と答えた方は、どのような指導が受けたいと思いますか。

()

☆質問8. で「受けたことがある」と答えた方に質問します。

<口腔嚥下チームが介入後の事について>

チームが介入してから、どのような変化があったか教えてください。

質問9. 口腔ケアをする目的は何ですか。(複数回答可)

- ① 口腔内の清潔の保持
- ② 誤嚥性肺炎の予防
- ③ 口臭予防
- ④ 口腔内乾燥の予防
- ⑤ 廃用性症候群の予防
- ⑥ 唾液分泌の促進
- ⑦ 口腔機能の回復
- ⑧ その他(下記にお書き下さい)

()

質問10. 勤務中に何回、口腔ケアを行っていますか。

日勤帯 () 回

夜勤帯 () 回

その他 ()

